

令和元年度 学校自己評価表（報告）

学校運営計画				
学校運営方針		「学力向上」「自立支援」「文武両道」を基本方針とし、社会性を身につけ、知・徳・体のバランスのとれたリーダーとして社会に貢献しようとする気概を持った生徒を育てる。		
昨年度の成果と課題		平成31年度の重点目標	具体的目標	
<p>〈成果〉</p> <p>○進路指導</p> <p>平成30年度卒業生大学進学者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総計328名（進学率91.6%） ・ 国公立大(217名) (60.6%) ・ 難関大学(23名) (6.4%) <p>○課題研究を中心とした第4期SSH事業の全体像を再構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカ合衆国海外研修を実施した。 ・ 2年次の課題研究に必要な能力を養成する「江風探究ユニット」を1年次で実施した。 <p>○生徒指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 服装指導、交通安全指導を徹底した ・ 学年の協力体制の強化 回り生徒の心のケアを一層充実できた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難関国公立大学進学希望者の増加への対応 ・ 高大接続改革への対応 	○進路意識の啓発と高い進路希望の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な情報提供により進路意識の啓発を行う。 ・ 大学訪問や講演会等を活用して、探究心や職業観を深め、主体性を育む。 ・ 課題の精選と課外活動の充実に努め、文武両道を実践する。 ・ 模試活用と個別面談の充実にを図る。 ・ 東大、京大、一橋大、東京工業大、国公立大医学部医学科に、5人以上の合格者を輩出し、国公立大学の実合格者数の割合60%以上、難関大学合格者30名以上を目指す。 		
	○基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の遅刻ゼロを目指す。 ・ 正しい身だしなみを身につける。 		
	○服装指導と交通安全を重点とする生徒指導の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車運転マナーを遵守させ、交通事故ゼロを目指す。 		
	○家庭学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習時間の確保(学年+2時間)。 ・ 難関大学入試問題の分析等により、指導の充実にを図る。 ・ 学習が遅れがちな生徒に対しては丁寧な個別指導を行う。 		
	○「第1志望の大学に合格」できる学力養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習が遅れがちな生徒に対しては丁寧な個別指導を行う。 		
	○SSH事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「探究力」をつけるため、全校体制で課題研究をに必要な技能を育む。 ・ 郷土を知り、貢献することを当事業の軸に据え、新潟市と連携し、地域の課題解決というテーマで取り組む。 		
	○いじめ防止対策の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒対象アンケートによる実態把握を行い、早期発見に努める。 ・ 教職員研修により、いじめ対応に係る資質・能力の向上を図る。 ・ いじめ防止対策及び発生した場合の対応を組織的に行う。 		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
進路意識の啓発と高い進路希望の実現	進路情報の提供	個人面談年4回以上、学年PTA年2回以上、学年便りの適宜発行など、生徒や保護者との相談及び情報提供を効果的に行う。		A
	探究心や職業観の育成	大学・職場訪問、大学講義体験、修学旅行、進路講演会などを通して、探究心や職業観を育成し、自ら考え、自ら学ぶ姿勢を涵養する。		
個性の伸長と文武両道の実践	文武両道の実践	課題の精選に努め、難関大学志望者に対応する課外講習や個別指導の充実、学校行事・部活動の活性化等を図り、主体的な行動を促す。		A
	模試の活用と個別面談の充実	課外講習や模試の事前事後指導を通して、生徒に具体的な目標を設定させる。模試結果から生徒の学習状況を把握し、適性を見極める。		A
		年間を通じて継続的に個別面談を行い、個性を見出し、気づかせ、伸ばす指導を実践し、学びのポートフォリオづくりの一助とする。		A

基本的生 活習慣の 確立	身だしなみ指導	女子のスカート丈の指導に加え、リボンの正しい着用を徹底する。積極的に声がけを行い、挨拶を励行する。	A	A	
	交通安全指導	自転車の交通安全指導を通学路で実施する。	A		
		交通講話を実施し、交通事故防止への意識を高める。	B		
	携帯電話・SNSの適切な使用	携帯電話の使用についてルールを守らせる。SNSやLINE等による、ネットトラブルに巻き込まれないよう指導する。	A		
	保護者との連携	P T A活動・保護者と連携し、基本的な生活習慣（頭髪、服装、遅刻、早退）を確立させる。	A		
心のケア	学年・保健部・臨床心理カウンセラーの連携により、生徒の悩みに早期に対応して、不登校等の予防を図る。	A			
学力向上	学習習慣の確立	朝学習と家庭学習課題を充実させ、家庭学習時間（学年＋2時間）を確保することにより基礎学力を定着させる。	A	A	
	成績上位者対応	長期休業中に講習を実施し、学力の向上と発展的学習を行う。	A		
	成績下位者対応	成績不振者には、学年と連携し、講習会や個別指導を実施する。	A		
SSH事 業の推進	「探究力」をつ けるための課題 研究充実とT A C Cプロジェク トの深化	「江風SS I」、「江風SS G」、「江風SS G II」、「江風SS G III」での指導に加え、学校の教育課程全般を通じ全校体制で生徒の「探究力」向上を図る。 主体的な課題発見能力・課題解決能力を育成するため、「課題研究」を軸としたSSH事業及び学校設定科目の開発・研究を行う。	A A	A	
	江風グローバル 研修プロジェク トの推進	海外研修を通して諸外国との継続的な科学交流を進めることにより、国際感覚や語学力・コミュニケーション能力・ディスカッション能力を育成する事業の開発・研究を行う。 「江風グローバル研修」では、科学論文を英語で作成し、海外の生徒との科学に関する交流を通じ、グローバルな視点と実践的コミュニケーション能力を備えた、未来を担う科学技術系グローバル人材の育成を目指す。	B B		
	課題研究に対す る意欲の向上	学校全体で積極的に課題研究に取り組み、科学コンテストなど課外活動に積極的に参加させることで生徒一人ひとりの意識を高める。	A		
	情報公開と成果 の普及	課題研究発表、SSH だよりの発行、Web ページへの事業内容の掲載、研究会や学会での発表により、研究成果の普及を図る。	A		
	いじめ防 止対策	いじめ認知の推 進	生徒対象アンケートを年3回以上実施して、生徒の実態把握に努める。また、教職員対象の研修会を実施し、いじめの早期発見、いじめへの対応に係る教職員の資質・能力の向上を図る。		A
		いじめ事象への 適切な対応	いじめ事象が発生した場合、管理職への報告、関係生徒からの事情聴取、及び指導、保護者への説明等を組織的に行う。		A
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した全職員による研究授業等により、教科を超えての授業研究が行なわれ、ICT活用の促進が図られた。 ・1年次総合的な探究の時間の取組「江風探究ユニット」と2年次学校設定科目「江風SS II」「江風SS G」の連携により、課題研究がより深化した。 ・評価法や指導法についての職員研修を実施し、指導者が探究型学習についての理解を深めることで、課題研究がより深化した。 ・進路指導の具体的方策をで示した内容は達成できた。今年度は、新入試制度の総合型選抜や学校推薦型選抜への早期対応を目指し、進路指導部と学年で連携し、情報提供を密に行った。 ・学年・養護教諭・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携し、生徒の多面的支援を行った。 		総合評価 A		